

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 調査報告概要表

作成日 2010年1月21日

【評価実施概要】

事業所番号	"0174600908
法人名	株式会社 オフィス 21
事業所名	グループホーム はなえみ
所在地	帯広市東6条南13丁目1番地 (電話) 0155-20-7007

評価機関名	(有)NAVIRE
所在地	北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成22年1月20日

【情報提供票より】(21年12月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 1 月 20 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	14 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 14.5

(2) 建物概要

建物構造	木造モルタル造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	450 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,400 円	

(4) 利用者の概要(12月20日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	8 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.4 歳	最低	68 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	長屋内科胃腸科医院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街に立地した当事業所は平屋建ての広々とした建物の2ユニットでお互いの内玄関に接する渡り廊下で繋がっています。又、敷地内には法人の地域生活支援事業所(プリング)が隣接しており、ボランティア(和太鼓等)の来訪時には利用者も一緒に楽しんでいます。近隣には中学校や公園・消防出張所・病院等があり、恵まれた環境になっています。居間兼食堂は広く、くつろげる造りになっており、一日を通じて落ち着いた雰囲気の中、利用者は自分なりの時間を過ごしています。職員は担当制をとり、利用者とは密な関係を築くとともに常に優しく接することを心がけ、日々のケアに取り組んでいます。地域の中で利用者・家族が安心して生活できるよう利用者一人ひとりの“その人らしさ”を大切にしています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善点については職員会議の中で話し合い、できることから改善に取り組んでいます。市町村と相談等を通じて連携を図るよう努め、職場内研修を実施し、異動・離職を最小限に抑えています。重度化や終末期に向けては利用者の状況や必要に応じ、その都度話し合いを重ねています。玄関の施設についても検討されています。外部評価については運営推進会議で報告するとともに閲覧方法を伝えています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>施設長・職員は自己評価・外部評価を実施する意義を理解しており、自己評価は全員で取り組んでいます。自己評価に取り組む中で日々のケアを振り返り、サービス向上に繋がっています。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>家族代表・町内会長・事業所代表等を構成メンバーとし、概ね3ヶ月に1回運営推進会議を開催しています。利用者の状況・行事等について報告するとともに、メンバーからの要望・質問等で意見交換が行われ、議事録を作成しています。又、江陵高校(福祉科)の先生・生徒による福祉科の取り組みについて説明があり、生徒の思いを知る機会としても活用されています。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>重要事項説明書に苦情相談窓口を明記し、家族に伝えています。運営推進会議や家族の訪問時を大切な機会と捉え、何でも言って貰えるような雰囲気作りに努めるとともに、利用者の状況や生活の様子・金銭管理について報告しています。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、散歩や買い物時には積極的に挨拶をするよう心がけています。資源ゴミ収集時の協力や、毎月発行している「はなえみだより」を町内会長に郵送し、事業所の現状を知らせています。又、近隣の中学校の運動会見学に出かけたり、事業所を体験学習の場として、中学生・高校生の受け入れを行っています。</p>

(有)NAVIRE

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『地域社会と共に日々の努力を惜しまず、常に利用者の人権を尊重し、自己決定による生活の営みを保障する』という独自の理念を事務室に掲げ、利用者と共に取り組んでいます。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、会議や内部研修会で再確認を行っており、職員は常に意識しながら実践に努めています。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会には準会員として加入しておりますが、回覧板は廻ってきてなく行事にも参加していない状況になっています。毎月発行の「はなえみだより」を町内会長に届けて理解を得る事と、近隣の中学校から体験学習の受入を行っており交流がされています。	○	資源ごみの収集に参加したり、積極的にホームの行事等に住民の参加を促す工夫をして、グループホームの理解と協力体制を築くことを期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は施設長と主任・職員が、職員会議で話し合いの中から施設長が纏め作成しています。自己評価・外部評価の意義についても理解し改善事項について取り組む意欲が見られます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね3ヶ月に1回の開催になっています。家族代表、町内会長、法人社長、施設長と主任職員で構成され、ホームの状況報告、意見交換が行われ、議事録を作成しています。	○	参加メンバーに、地域包括支援センター担当者・利用者・家族・系列の施設管理者などに促して参加してもらい、出席者に議事録を配布し開かれたホームを目指す事を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者とは連絡を密に取り、相談や情報収集を行いサービス向上に活かすように努めています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行のホーム便り「はなえみだより」を送付し、また家族が訪問時には手渡しをしたり、金銭出納簿や生活状況報告が行われています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情申立て箱は玄関に設置されていますが、家族が面会時に何でも言ってもらえる関係作りに努め、意見・要望を言い易い環境を整え、家族と共に利用者支援に取り組んでいます。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設時より職員の離職が少ない状況にあります。施設長は、働きやすい環境づくりを検討し、利用者に早期に顔馴染みの関係を築く様に配慮し、ダメージを防ぐ工夫をしています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に、職員の技量などから参加を呼びかけ、研修内容をミーティングで報告をします。職員も休日を利用して研修に参加しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政主催の研修会を通し意見交換や情報交換をして交流を図っています。	○	同業者との交流を積極的に図り、研修会や協議会を通じて相談できる関係を築き、職員交流も出来る様望みます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に利用者と家族に見学をして貰い、施設長が話し合いを重ねる中で、希望や状況の把握をし、安心して利用が出来る様に配慮しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	担当制を設けており利用者と共に過ごすことを喜びとし、料理の味付けや下ごしらえ等教えて貰うことを大切にしながら支え合う関係を築いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの個性や生活暦を考慮し、利用者や家族と接する中で、思いや意向の把握に努めています。困難な場合は表情や様子から思いを汲み取り希望に沿うよう支援しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の意向を踏まえ、介護支援専門員は職員の意見、生活記録を反映しながら、本人本位の介護計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護支援専門員は、利用者・家族・職員間で話し合い、3ヶ月毎に見直しを行っています。又、状況の変化に応じて随時見直しを行い、現況に即した計画の作成に取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助、散歩・買い物・理美容などの外出支援、利用者、家族の立場に立った支援を提供しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望するかかりつけ医と連携し支援しています。受診結果は、職員間で共有し、家族への報告も行われています。協力医院の往診も月に2回行なわれています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	指針はありませんが、ターミナルケアを希望される利用者・家族の場合、施設長やかかりつけ医と話し合いながら柔軟な支援を心掛けています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	施設長、職員は利用者の尊厳を大切に言葉掛けや対応に留意し、個人記録も事務室で見守りながら利用者の眼の付かない所で記入する等の配慮をしています。書類の保管も鍵の掛かる書棚に保管しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者一人ひとりの趣味やペースに合わせて希望に沿った支援をしています。利用者は居間で過ごしており、レクリエーションを楽しむ等その人らしく、穏やかな暮らしが伺えます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付け等、利用者の状況に合わせて共に取り組んでいます。献立は季節感を取り入れ、利用者の好みに合わせ提供されています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日お湯を入れ、最低週2回は入浴出来るように支援しています。利用者の希望で午前中からの入浴を楽しむ事もあります。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で力を発揮出来る様、食事の配膳や後片付・花壇や畑の世話等の支援をしています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望や状況に合わせて、日常的に散歩や買い物に出掛けています。紅葉狩りや菊まつり見学に出掛ける等の支援に努めています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家族の了解を得て開設時より日中は玄関に鍵をかけています。不審者対応と利用者の安全確保と面会者の確認に繋げています。改善として徐々に鍵を掛けない方向で支援をする事を検討しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を実施しています。訓練時には消火訓練や通報訓練を行ない、夜間時を想定して職員への連絡訓練も行なっています。	○	何時起こるか分からない災害には日頃の訓練が大切と考え、昼間と夜間帯及び夏と冬場を想定した訓練の実施も検討されることを望みます。住民の協力を得る為に訓練の呼びかけ及び参加と協力内容を理解される様期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	制限がある利用者へ水分量の記入、食事量は全員記録され、職員間で共有しています。不足がちな利用者には声かけ等で確保につとめています。	○	利用者全員の健康管理として、水分量のチェックを作成し職員全員が情報の共有に努める事を期待します。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせてディスプレイがされており、季節感を感じる工夫を取入れて、静かな環境を感じられます。不快な音や光がない配慮もされています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使用していたベット・タンス・鏡台・テレビ・人形・写真等を持ち込み自分らしい空間で生活しています。		